

大廣く内外に宣場し創立日尚ほ浅きに拘らず其發展たるや期して俟つべきものあり
 然るに然るに此の東洋の大殿堂日本劇場の爲に流涕せざるを得ざる事実に其し
 我等の劇場を愛するの赤誠は遂に激発して今回の止むを得ざる事態を生ぜしむ
 悲しむ所なり
 此の事態を懸念せしむる事実は即ち曰く日本劇場重役の無能ノ唯だこの一語
 に盡く
 彼等重役は世の功利に眩惑し其力量を辭せず本劇場本來の使命を忘矢し只管私
 腹を肥すことに専心し殊に常務池田信一の如きは何等劇場経営の体験も無く後
 らに分不相応の地位を冒瀆し大川翁の恩義を忘却して只自己あるのみを知る
 彼等如きは藝術界への汚濁的存在たるのみならず人として樹死に値すべきもの
 といふべき也
 小人利ヲ求メテ口危止とは古聖の言を如實に行ふ不徳漢を謂ふも決して過言に
 非ざる也 不徳は遂に藝術腐敗の因となり劇場経営への破綻となる此正に天理の
 示すと云ふなり
 彼等重役は斯くなるべき道理を解せず否或は解しつゝも此の責を自己に求めず
 して他に轉嫁す 而して最も忠實にして最も弱き従業員への彈圧を以て自己の
 不徳を蔽はんとし 鐵首につぐに鐵首只管従業員の不徳を醸成し以て本劇場重役
 の任務の如く考へつゝあるなり
 凡そ生活不安のあるところどこに持参心理の不整調を来すは自然にして愉快不
 るべき我等の毎日の生は不斷に一枚の暗雲低垂するを如何せん斯くして我等
 は眞實に憂ふ即ち一過かしの日の教手向ふの瘰癧の如き日劇の姿復興も柄の向に
 して今やお市柳のやぐらに其の醜態を再現するに非ず也
 我等は單に自己の生活のみに出せすより大衆的に本劇場本來の使命に自覺し

茲に日本劇場改組運動を起すに至りたり
 而して該運動の重心は全く大川翁の眞摯なる藝術愛を服膺しつゝ生活せんとす
 る赤誠の奔りに外ならずあるもの也
 而して此の目的達成の爲慈心母の如き大川翁と義を起て動かせること無き志村
 威亥知沢の力に満腔の信頼を置き我等の運動の成功を期すべしなり
 茲に日本劇場重役改組運動の内容を認め我等の大川平三郎氏に一書呈呈し噴瀝
 すべし
 昭和九年五月四日
 日本劇場重役改組團
 代表者

- 對 馬 煎
- 野 白 正 重
- 高 山 外 代 吉
- 鈴 木 喜 吉
- 加 藤 架 潔 治

大川平三郎閣下 便 史

別記 (三)

(一) 日本劇場 使命並に現状の概を子々識言す
 陸 陸 宮 白 重 殿 皇 日 本 劇 場 東 西 藝 術 融 合 の 企 圖 其 中 映 画 藝 術 を 介 して 同胞 並 に 國際 へ 親
 和 的 交 渉 事 業 を 以 て 其 使 命 一 我 等 従 業 員 其 本 末 面 目 一 層 誠 心 誠 意 連 携 奮 闘 せ ば 能
 け 藝 術 報 國 の 赤 誠 を 終 始 一 貫 して 幸 々 幸 々 大 川 平 三 郎 翁 八 十 有 余 高 齡 以 来 未 だ 新